

市民も変わる行政も変わる オープンガバナンス

奥村 裕一

(一社) オープンガバナンス・ネットワーク・ラボ
元東京大学公共政策大学院

オープンガバナンスを全国に広める東大発コンテスト

チャレンジ!!オープンガバナンス

COG

STEP2

市民／学生の
解決アイデア募集中

12/20〆切

データ・デザイン・デジタルで地域課題解決に市民が迫る!

これまで63自治体参加



2020

新型コロナへの対応

永遠のベータ版

- COG総合賞
- アイデア 賞
- 連携体制賞
- 学生賞
- ハーバードイノベーション賞
- 協賛団体賞
- オンライン投票賞

- 共催
 - 東京大学公共政策大学院
科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」教育・研究ユニット (STIG)
 - 東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム (GCL)
 - (一社) オープンガバナンスネットワーク (OGN)
- 連携
 - ハーバード大学アッシュセンター
- 協賛
 - LINE株式会社
 - (一財) 日本情報経済社会推進協会 (JIPDEC)
 - Tableau Software
- 後援
 - 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 (IT 総合戦略本部)、内閣府 (地方創生推進事務局)、
 - (一社) 行政情報システム研究所、(一財) 地域活性化センター、(一社) Code for Japan、
 - (一社) オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン、(一社) オープン・コーポレイツ・ジャパン、デンマーク大使館

- アイデアの実行を目指したフォローアップ
 - ・ 1年後
 - ・ 2年後
 - ...
- 実行こそいのち

チャレンジ！！オープンガバナンス

- 市民も変わる：地域課題の解決と未来創造に自分ごととして取り組む市民
- 行政も変わる：データや知識の提供で地域のプラットフォームをめざす行政
- オープンガバナンス：このような市民と行政の協働で進化を遂げる公共圏

STEP1（夏の陣）

自治体からの課題募集
（2020年6月～8月）
市民目線で課題を発掘

自治体はデータと知識を提供する
プラットフォーム

STEP2（秋の陣）

市民／学生の解決アイデア募集
（2020年9月～12月）
アイデアに磨きをかける3D

データ活用（社会の実相をつかむ）
デザイン思考（人間の心を深く知る）
デジタル技術（新しい繋がりと予測）

解決へのストーリーを描く

STEP3（冬の陣）

審査と改善アドバイス
（2021年1月～4月）
最終公開審査 2月28日

🏆 総合賞
🏆 アイデア賞
🏆 連携体制賞
🏆 学生賞
🏆 ハーバード大学賞
終了後に実施へのアドバイス

これまでの参加自治体一覧

1 札幌市	22 神奈川県	43 大阪市東住吉区
2 室蘭市	23 横浜市	44 大阪市住之江区
3 森町	24 横浜市金沢区	45 豊中市
4 八戸市	25 川崎市宮前区	46 枚方市
5 仙台市	26 鎌倉市	47 神戸市
6 鶴岡市	27 新潟市	48 姫路市・福崎町・市川町・神河町・朝来市・養父市
7 南陽市	28 金沢市	49 西宮市
8 会津若松市	29 鯖江市	50 加古川市
9 水戸市	30 越前市	51 三田市
10 春日部市	31 静岡市	52 生駒市
11 深谷市	32 三島市	53 倉敷市
12 松戸市	33 掛川市	54 宇部市
13 茂原市	34 裾野市	55 高松市
14 流山市	35 菊川市	56 松山市
15 港区	36 牧之原市	57 八幡浜市
16 文京区	37 大津市	58 北九州市
17 品川区	38 近江八幡市	59 福岡市
18 目黒区	39 草津市	60 小城市
19 世田谷区	40 京都市	61 玉名市
20 中野区	41 大阪府	62 日南市
21 多摩市	42 大阪市	63 那覇市

オープンガバナンスの背景

1. 行政の歴史的転換

- ・君主の時代⇒民主の時代⇒代議員制
- ・議会が社会のルールや行政の仕事を決定
- ・行政が執行⇒市民とともに連携

2. 地域コミュニティの新生再生

- ・生活：仕事：家庭：コミュニティ
- ・コミュニティが執行の一部を担う
⇒生き方改革（WLSB）

3. デジタル社会

- ・ヒトもモノも新たな形でつながる
- ・データ、データ、データ
⇒ソサエティ5.0

4. デモクラシーの再構築

- ・デモクラシーの行き詰まり
- ・市民も主役・行政も主役
⇒オープンガバナンス



**市民も変わる
地域のことは自分ごと**



**オープンガバナンス
どちらも主役の公共圏**



**行政も変わる
市民のプラットフォーム**



市民はどう変わる

社会参加が当然の市民

- ・ 社会の課題を自分ごととする
- ・ 課題解決に実際に取り組む
- ・ それをグループで挑戦する

でも壁が

- ・ 時間がない
- ・ 行政任せでよい
- ・ 地域のグループ付き合いがない

変わる市民への手立て

- ・ 共同の参加の機会を地域でつくる
 - ・ デジタル・オープンガバナンスで市民参加の場を拡大
- ・ ワークライフソーシャルバランスを少し変える
 - ・ 会社にもプラス 職場の応援が不可欠



行政はどう変わる

プラットフォーム行政

- ・ 変わる市民とデータ・知識の共有と協働のプラットフォームを提供する
- ・ 市民と一緒に政策を作り実行する

でも壁が

- ・ データの扱いに不慣れ
- ・ 自分たちで決めてきた
- ・ 市民と対等で話し合うのは苦手

変わる行政への手立て

- ・ デザイン思考で市民の立場に立ってみる
 - ・ 一旦自分の立場を離れる訓練 職場の応援が不可欠
- ・ 市民と行政が同じテーブルにかみしもをぬいで参加
 - ・ デジタル・オープンガバナンスの場に行政も参加

英国政府の
ポリシーラボ
Lucy
Kimbell

発見 1

これまでの政策設計はそれぞれごちゃごちゃ

発見 2

仮説を立てて検証しながらの政策設計が必要

日本でいえば前例主義ではよくない

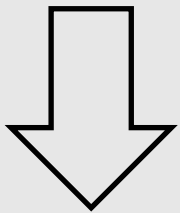
発見 3

市民をユーザー、受益者の発想でとらえていてはダメ
ともに作りともに実践

発見 4

市民を設計段階から巻き込む必要
Co-designerに

オープンガ バナンス4 原則



これを支える
データ・デザイン・デジタル

地域の課題を一緒に探す

市民が自分ごとで解決策を見つける

行政はプラットフォームになる

協働で政策を実行する

データ・デザイン・デジタル 3Dを活用する

Data 事実を確認

Design 心を紐解く

Digital 力を借りる

デジタルオープンガバナンス

- 市民と行政の協働のオープンガバナンス
- 協働にはヒトとヒトのつながりがカギ
- デジタルでリアルの弱点を補う以上のプラスを得る
- つながりから何かを意識的に生むには以下が必要
 - ①相互の信頼関係 ホンネを出し合うことから
 - ②共通の行動規範 共通の価値判断から
 - ③つながりの場のファシリテーター データも心もファシリ

つながりを支える

① 出会いの場

- リアル
- デジタル
- 両者の連携

○ ②ファシリテーター

- ③データに聞く
- ④人の心を紐解く